

# 不破高校朝読通信 第12号

平成 25 年 9 月 30 日 (月)  
発行 岐阜県立不破高等学校図書部

クラス別・個人別 図書貸出冊数 ベスト1 ベスト2

月	種 類	ベスト1	ベスト2
7月	総合貸出冊数	1年4組	2年2組
	朝読書用学級文庫貸出冊数	1年2組	2年2組
8月	個人貸出冊数	1年4組	2年2組

紹介する本

題 目 『ドキュメント 深海の超巨大イカを追え!』  
著 者 NHK スペシャル深海プロジェクト取材班・坂元志歩  
発行所 (株) 光文社  
発 行 2013年7月10日 第1刷  
定 価 900円+税  
図書館で購入予定

理科教諭 竹中 諒

学生時代にお世話になった先生が、ふとつぶやかれた言葉が耳に残っています。

「横（前後左右）に1km進むのは簡単でも、縦（上下）に1km進むのはとても難しい。」  
みなさんはこの意味がお分かりでしょうか。通学路を例に考えてみましょう。1kmより長い距離を移動している人がほとんどで、中には電車やバス、自転車を使って10kmを超える距離を毎朝・毎夕通っている人もいます。しかし、「上下方向に1km通っている」人はいないのではないのでしょうか（ちなみに伊吹山頂の高さが約1kmです）。

当然ですが、私たちは地面に立って生活しています。鳥のように飛ぶことも、魚のように泳ぐこともできません。私たちが知っている世界というのは案外狭いものなのです。それを改めて感じさせてくれる番組が先ごろ放送されたNHKスペシャル「深海の超巨大イカ」でした。

下に1km進んだ水深1,000mの深海は、高い水圧・漆黑（しっこく）の暗闇と生身の人間がたどりつける場所ではありません。そんな深海に潜む超巨大イカ“ダイオウイカ”の撮影に挑むドキュメンタリーは、その世界初の映像とともに大きな話題になりました。その舞台裏を描いたのが本書です。

映像としては番組1本、撮影時間にすれば23分のために、下準備や撮影機器の開発にかけた時間は10年以上。深海という未知の自然や、そこに住む生き物を相手に、知恵と情熱をかけて挑戦する様子が描かれています。

では、彼らを撮影へと突き動かす、その原動力はいったい何なのでしょう。もちろん世界初という「名誉」や高い「視聴率」を求めて、という側面もあるかも知れません。しかし「まだだれも見ることがないものを見たい」、「知らないものを知りたい」という純粋な好奇心が圧倒的に大きいことは、本書を読めばすぐに分かります。計画中止の危機が何度もありました。それでも地元小笠原の漁師から世界11か国の研究者、撮影スタッフが夢中になって「たかがイカ」の映像を命懸けで追いかけたこと。その結果得られた世界初の23分間の映像とともに、撮影自体が一つのドラマとして、人々に受け入れられたからこそ、大きな話題になったのだと思うのです。

あとがきの中に印象的な言葉があります。

「情熱という種が人々の間で転がりながら、一つの実になっていった。」

文化祭で達成感を得た多くの人々は、同じような状況を体験したのではないのでしょうか。

私たちは、時々何もかも分かったようにこうやってしまうことがあります。「面倒くさい。」「そんなこと、やらなくても同じ。」「一生懸命やるのなんて…。」

どんなことでも、一人だけではなかなか前へ進みません。一人の力は確かに小さく、世界はちっぽけです。ですから、一緒に苦労し、励まし合い、喜びを分かち合える仲間が存在が大きく、かけがえのないものだと思うのです。それは本書に描かれているような巨大プロジェクトに限らず、日常生活でも同じことが言えるでしょう。